

ASH annual meeting 参加報告

NTT 東日本関東病院 血液内科

飯塚 浩光

この度、JALSG Young Investigator ASH Travel Award に採用いただき、2015年12月に米国フロリダ州オーランドで開催された第57回 ASH annual meeting に参加する機会をいただきました。ASH annual meeting に参加するのは、はじめてのことで、その規模の大きさに大変驚かされました。

非常に興味深い発表が数多くありましたが、特に印象深かったのが、precision medicine を主なテーマとした EHA (European hematology association) とのジョイントシンポジウムでした。Precision medicine とは、あまり聞き慣れない言葉でしたが、2015年1月に米国のオバマ大統領が precision medicine の推進のための取り組みを立ち上げたとのことで、注目されているようです。近年、Next generation sequencer (NGS) などにより遺伝子解析技術が進歩し、様々な疾患の遺伝子変異についての情報量が増加したものの、まだ実臨床での治療法を選択などにその情報をうまく活用できていないのが現状です。Precision medicine では、得られたゲノム情報によって、適切なサブグループに層別化し、そのサブグループごとに適切な治療法を確立したり、患者背景に応じて適切な予防法を講じたりしようとするものです。NGS がより身近なものになり、疾患のゲノム情報が増えていくなかで、Precision medicine の普及に向けて、データベースの構築や人材育成、臨床試験の計画法、データの解釈などについて、現状と今後の課題などが紹介されました。また、実際に進行中の臨床研究の実例について紹介され、ゲノム情報を臨床に結びつけ、医療を改善させるために、協力して残されている問題を解決していくべきだとの見解が示されました。今後の医学、医療が進むであろう、ひとつの方向性を感じさせるものでした。

この他にも、最新の臨床試験の結果などの知見に触れることができ、非常に有意義で刺激的な経験となりました。今回の学会に参加することで、学んだことや、感じたことを、今後の自身の臨床および研究活動に活かしていきたいと思えます。そして、将来、このような舞台上で自身の研究成果を世界に発信することができればと思えます。

最後になりましたが、今回、非常に貴重な機会を提供してくださった NPO JALSG 支援機構の先生方および事務局に感謝申し上げます。